

保育園関係者説明会会議録

No. 1

地区名	西布施 地区	日時	10月10日(金) 19時00分より 20時30分まで		参加者数	20名
会場名	西布施保育園	司会	こども課 保育係長	書記	こども課職員	
市側の出席者	民生部長 山本 芙紀子 こども課長 高木 繁徳 こども課保育係長 村崎 博 こども課保育係指導主事 青森 裕美子			地区からの主な参加者	民生委員児童委員、地区振興会長、地区振興会副会長、PTA会長、保育園保護者	
発言者	発言概要					
保育係長 こども課長	挨拶					
保育係長	説明 ○ 子ども・子育て支援制度について ○ 人口の推移について ○ 西布施保育園の園児数の推移について ○ 適正配置計画について					(~19:15)
地区住民 A	質疑応答 計画によると平成30年に閉園定員の半数かつ20人以下という条件が出ているが、西布施地区の他の地区から西布施保育園に入園し20人以上となった場合は、保育園は継続するのか。					
保育係長	その通りである。					
民生部長	保育園は、どの地区からの入園も可能である。					
地区住民 A	耐震診断について。現在未実施となっているが、耐震診断の予定時期はいつ頃なのか。					
保育係長	この施設は昭和56年以前(昭和48年)に建設された施設である。40年以上経過しており耐震性はないと思われるが、一階建て・500㎡未満の建物なので、診断結果公表の義務づけされた施設ではないこともあり、耐震診断は未実施となっている。園児数の減少も踏まえ、施設の方向性について検討している。今後、存続するなら診断し、耐震補強する必要があると思われる。					
地区住民 A	将来の入園児童数が分かってから、判断するということなのか。					
民生部長	建築基準法上は耐震義務付けされた建物ではない。市の施設は他にも多数あり、優先順位を付けて耐震診断してきているため、ご理解いただきたい。40年以上も経過した施設であり、存続するなら建替え等検討することになると思う。休園の判断は平成29年度当初の在園児で判断となる。					
地区住民 A	保育園、幼稚園の問題は、小学校の統廃合とは別に考えていかなければならない問題である。地元で保育園がなくなると仕事に行くことができない。子どもを産みたい親たちが、この地区に住んでくるかどうかというとても深					

	い問題である。地元で保育園がなくなると、親の負担が大きくなることも危惧している。市は財源の問題から保育園の統廃合しようとしているようだが、小学校の統廃合計画に関連して、保育園の統廃合の問題が急に出てきた。このようなことなら、市には、一から考え直してもらいたい。地区をますます過疎化させるような施策である。市の考えを聞きたい。
民生部長	魚津市での小学校の統廃合計画の検討は、平成 15 年頃から検討され、10 年以上経過しようやく動き出そうとしている。他の自治体ではもっと以前から進んでいるが、魚津市は施設の問題に関しては 30 年近く、全く進んでいない。地域の活動を大事にしたいということが根本にあったからである。市の全ての公共施設の見直しをする中で、保育園に関しても将来に向けた改革をしていかなければならないということで、一年かけて検討してきた案をお示ししている。地元のご意見は十分理解している。市長は、この案を公表することに対し、地元が子どもを増やす努力をする起爆剤となるような案であるならと申し上げていた。担当としても、この案が全てとは考えておらず、いろいろな余地もあるので、地域のご意見を伺い、5 年の間に少しでも進めたいと考えている。今回が初回なので、これから話し合いをお願いしたい。
地区住民B	いろいろな意見があるので幅広く聞いてもらいたい。地区に保育園を残し、親が安心して勤務できる環境を、若い親たちに残して行かなければならない。地元で施設がないと、若い親が他へ移って行ってしまふ。ますます過疎化し、地区が衰退していくことになる。
保護者	資料によると休園については、平成 29 年度当初の在園児数により判断することとなっているが、それより前に他の園に移る人が出てくる等、園児が少なくなった場合休園が前倒しになるのか。
保育係長	今のところ最低でも平成 29 年度末までは維持する。
民生部長	案が正式決定となると、そのような事態になる可能性があるので、あくまでたたき台として話し合いたいと思っている。
保護者	片貝と西布施が一緒になるなど、経田以外に案はないのか。経田は遠いので。
地区住民B	海側は、津波・地震など心配である。標高の高い方に保育園を移すという案はないのか。
民生部長	そのようなことも含め提案を求めている。
保育係長	県の津波のシミュレーション想定によると、最大の津波の想定（7～8 m）でも、保育園までは津波は到達しないこととなっている。
地区住民B	実施機関により、想定は変わる。県のシミュレーションを信用していいのか。
保育係長	信用していいと思っている。地震に関しては、経田保育園は平成に入ってから建設された新しい建物でもある。
地区住民A	津波、片貝川の氾濫等、いろいろな事態について考えてもらいたい。
民生部長	今日来ているのは防災のプロではない。どこで何が起きても不思議ではない。

	<p>子どもたちの安全が一番であると考えている。</p> <p>小学校とは違い、保育園・幼稚園は、どこに行ってもいいため、最初の説明で片貝と西布施と経田を統合するとの説明をしたが、西部と東部に公立のこども園を設立するという想定をしており、今のところ東部は施設も新しい経田保育園を、西部は住吉保育園を改築することとして想定している。</p>
地区住民B	<p>保護者が安心して預けることができる場所を考えていただき、経田に限定しないしてほしい。</p>
保育係長	<p>保育園は、経田に限っているわけではない。どこの保育園でも選択できる。保育園は市内各所に散らばっている。</p>
地区住民C	<p>平成29年度に園児数が21人であれば、休園にはならないのか。平成30年度に見直しするのか。</p>
民生部長	<p>様子を見ることになる。</p>
地区住民C	<p>ずっと様子を見るのか。翌年度様子を見るのか。</p>
民生部長	<p>地区によって事情が違うので、目安は案通りであるが、その時の判断となる。</p>
地区住民B	<p>なぜここに保育園が作られたかを考えてもらいたい。この保育園により多くの親が恩恵を受けてきた。園児数が減ったというだけで、他の保育園に行けというのは無謀である。安心して子どもを育てる環境を市が取り上げることではないか。安心して子どもを育てる環境について提案してほしいということなら、どれだけでも提案する。それから考えていくことではないか。進め方が逆になっている。</p>
地区住民C	<p>園児数が減っても残すということとはできないのか。</p>
保育係長	<p>税金を投入することになり、市の全体的な議論になる。</p>
地区住民B	<p>子どもを安心して育てる環境がなければ、その市は人口が少なくなる。それを止めるのが市の役目である。</p>
保育係長	<p>ただ単純に保育園を閉じるという話ではない。一部で保護者の就労によらず子どもを受け入れることができる認定こども園を拡充し、延長保育や、一時預かり等の特別保育を拡充しようとしている。</p>
民生部長	<p>地元になれば、なくなる話ばかりには違いないが。</p>
保護者	<p>西布施保育園は複式保育になっている。発達段階においては、年齢ごとの保育が大切だと思っているが、市内で他にそのような状態になっている保育園はいくつあるのか。</p>
民生部長	<p>とても大事な問題である。年齢ごと、学齢に応じた担任をきちんと付けるのが望ましいと思う。</p>
保育係長	<p>低年齢の子どもが複式になっているところは他にもある。年長・年中等が複式になっている園は、片貝・西布施・野方・松倉保育園の4園である。</p>

保護者	人数が多い保育園は1人の担任がみる園児数が多い。何園か保育園が閉じて行くとなると、そのような状態になる保育園が増えるのではないか。安心して子どもを預けることができるから、次の子ども産もうと思える。心配なことしかない。
地区住民B	市が保護者に対してどのような配慮をしているかということも示してもらいたい。園児数減少だけではなく、他の要素も考慮し市の考えを提示してもらいたい。丁寧に説明していただきたい。
民生部長	そのように感じられたなら申し訳ない。小規模の園を残したい思いはあるが、民間の保育所の経営を圧迫することにもなり、新たに統合園を設立することもできない。
保育係長	西布施・片貝を集約するという言い方をしてしまったが、在園児に経田に移ってもらうということではなく、公立・私立の保育園の中から自由に選択していただくということである。
地区住民A	園児数が増えれば、保育士の負担も増えるのではないか。
民生部長	今まで努力し、市として西布施保育園を存続してきたのはご理解いただきたい。
保育係長	保育士の確保が難しい状況である。
地区住民B	賃金に原因があるのではないか。市も努力しなければならない。
保育係長	私立の職員の処遇改善に対しては、市から補助を出して務めている。経営面においても、県から市に昨年からの経営に関して監査権限が移ってきている。保育士の賃金の改善に関しては、まだ効果が出てきていないのが現状である。
地区住民D	資料の表について、保育士と園児の割合が分かるように、保育士数を掲載していただけたらと思う。
保育係長	保育士数を掲載することはできる。西布施に関しては、複式学級となっていることもあり、保育士数は少ない。保育士と園児の割合は、0歳児は3人に保育士1人、1・2歳児は6人に保育士1人、3歳児は20人に保育士1人、4歳以上児は30人に1人となっている。
保護者	現状では、私立保育園でも保育士確保が難しい状況で、公立の何園かが閉じれば、私立に園児が集まることになるが、その時点で保育士は確保できるのか。
保育係長	平成27年度から新制度が始まり、消費税の財源を元に、保育の質の向上のため、職員の処遇改善も図られることとなっている。その効果が出れば、保育士の確保も見込まれると思っている。また、少子化の進行により、計画では現時点の規模でもやっていけると想定している。

地区住民C	4箇所の説明会が一通り終了した後は、どうなるのか。
民生部長	市で見直しを行うことになる。今日の質問・意見はまとめてホームページにも掲載予定である。この案は確定ではない。一回目の説明会であり、修正していくことを前提に説明を行っているのでご意見をいただきたい。しかし、園児数が何人になっても残すという議論ではないことは理解していただきたい。
地区住民B	今日出た意見を受け止めて、持ち帰って相談していただきたい。次の説明会において活かしていただきたいと思う。今日のような説明の仕方では地元は受け入れられない。
保護者	資料を見ると、吉島小学校に通う園児が多い保育所を選ぼうとしても、現段階において定員をいっぱいのものであるが、入園できるのか。
保育係長	かつては、定員を超えることはできなかったが、近年待機児童の増大もあり、定員の弾力化を図るため、施設の面積基準や保育士1人当たりの園児数の基準を満たしている場合は、定員を超えて受け入れることができることとなっている。私立保育園に支給されている、国・県・市からの運営費の1人当たりの単価は、定員が少ない方が高いため、各保育園では、ルールはあるものの、できるだけ高い運営費を得るために定員を少なく設定されている。このため、利用定員は見かけの定員であり、実際の受入れ可能数はこの定員より多い。
保護者	保育園の受入れの時間帯と、保護者の送り迎えできる時間が合わず、西布施保育園に近い所に住んでいても、他の保育園に子どもを預けている人がいる。保護者が子どもを保育園に預ける場合、まず考えるのは、送迎しやすい場所にある、送迎できる時間帯開所している、同じ年齢の園児の数等ではないか。
地区住民B	西布施保育園の園児数と、西布施に住む子どもの数は同じではないということか。今までの説明はなんだったのか。西布施地区は保育園の送迎は、大半は祖父母が行っている。遠くの保育園に預けるとなると、祖父母は遠くへ行かなければならないことになる。
地区住民A	市立保育園の開所時間は一律なのか。
民生部長	保護者のニーズにより、7時から開所している保育園もある。住民基本台帳条の人数も資料に記してあり、出生数は去年0人だが、今年は11人となっている。この人数も勘案していく必要はある。開所時間については、7時半開所の園でも、事情によっては開所時間より少し早くから柔軟に受入れするなどしている。
地区住民A	保育園の先生方に負担がかかるのは理解しているが、働く親の気持ちが大変である。
保護者	仕事の都合上、朝夕送迎の時間帯が合わず、今は祖父母にお願いしている。送迎の時間帯の合う保育園に預けることも考えたが、やはり地元がいいと考え、西布施保育園に預けている。このような意見があることも伝えてほしい。

地区住民 A	仕事で送迎できない保護者の中にも地域に預けたいと考える者もいる。保育士が保育園に来る間での間、市役所の職員が早く来て受け入れるという気持ちはないのか。
保育係長	保育資格が必要であり、保育士の出勤前に受け入れることは難しい。
地区住民 B	定年になった保育士がいるのではないか。
保育係長	確保は難しい現状である。
保護者	小学校の統合には大変な時間と労力を使った。保育園の今後の方向性についても早く示してもらいたい。小学校の統合が決まり、小さい小学校から大きな小学校に行く子どもは、とても不安感があるようだ。子どもが過敏になっており、将来的にとっても不安である。随時、保育園の適正配置案に関する情報提供を行ってもらいたい。保護者に対するアンケート等も行っていくのか。
保育係長	4地区全て回った時点で、随時情報は行っていきたい。アンケート調査に関しては、昨年秋に行ったニーズ調査において、統廃合に関する調査項目も設けてあった。
地区住民 A	小学校の統合問題と、保育園の問題は別であるということをきちんと伝えてもらいたい。
保育係長	ご不明な点、ご意見等あれば、こども課までお願いします。

(~20 : 20)